

輸入粗飼料の情勢

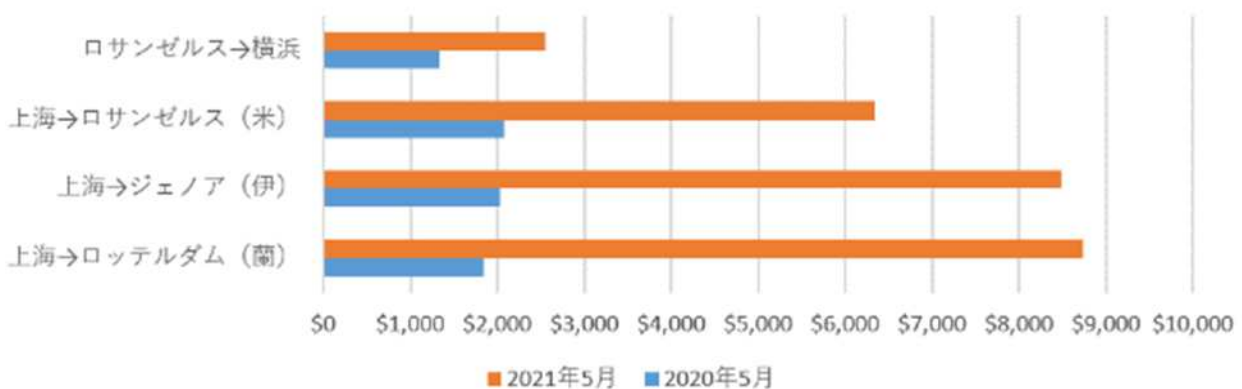
全酪連
購買生産指導部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

ロングビーチ港・ロサンゼルス港のある PSW では引き続き沖合でのコンテナ本船の滞船が続いていますが、現在では15～19隻前後まで減少しています。米国全土でコロナウィルスのワクチン接種が進み、港湾作業員が荷役に復帰したことで荷役能力は回復し現在の滞船日数は3～4日程度となっています。一方で日本向けの本船がロサンゼルス港の次に経由地として寄港するカルフォルニア州オークランド港の混雑が顕在化しています。ロサンゼルス港・ロングビーチ港の混雑を避けるため、今年に入り各船社オークランド港への本船寄港が増やしたことが要因と考えられ、現在20隻前後のコンテナ本船が沖合に滞船しています。オークランド港はロサンゼルス港・ロングビーチ港に比べコンテナターミナルが少なく、荷役能力が劣るため、沖合での滞船日数は7日程度となっています。このため日本向け本船のスケジュールが再度遅延し始めています。船社によっては、スケジュール正常化のため、日本向けを含む複数のサービスで7～9月におけるオークランド港の抜港を発表しています。

また中国において空コンテナ不足が6月より深刻化しています。未だに世界的な海運の混乱が続くなか、中国からの輸出は夏場からクリスマスシーズンにかけて繁忙期を迎えます。中国から世界各国へのコンテナ運賃は引き続き上昇しており、中国でのコンテナ不足は今後も北米からの空コンテナ回漕を助長すると考えられ、引き続き日本向け船腹確保の状況には注視する必要があります。

40フィートコンテナ1本あたりの運賃比較 20年5月 vs 21年5月



(各航路別5月のコンテナ運賃比較 データ元：日本海事センター企画研究部)

ビートパルプ

【米国】

ミシガン地区（ミシガン州）は地域により降雨量にバラつきがあり、早魃の懸念がある地域も発生しています。産地ではこの先、降雨予報があるため、収量の回復が期待されていますが、状況によっては減収の可能性もあるため天候には注視が必要です。ミンダック地区（ノースダコタ州）では、6月中旬以降、雨不足となっており収量の低下が懸念されています。

アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは1番刈の収穫が終了しており、現在2番刈の収穫作業が最盛期を迎えています。1番刈の収穫は順調に進み、降雨被害は全体の30%~40%程度となっており、多くの雨当たり品が発生した20年産と比べると良好な作況となりました。21年産の1番刈は、綺麗な緑色のスタックが多いものの、生産のほとんどがビッグベール原料となっており、全体的に乾燥気味な品質となっています。2番刈は収穫開始時に降雨がありましたが、7月上旬以降、好天が続く予報となっています。一方産地では熱波が発生しており最高気温が40℃近い日が続いているため、成分低下と過乾燥な品質になることが懸念されています。また西海岸全域で厳しい早魃となっており、灌漑施設が少なく放牧草の生産が不足している近隣のアイダホ州、モンタナ州などの酪農家、肥育農家が産地に買付けに入っており、乾燥気味な品質でも成分が良ければ高値で売買されています。加えて乳価の好調な中国向けの引き合いが強いため、産地価格は上昇しています。例年2番刈以降の番手は相場が落ち着き、1番刈よりも安価で取引されますが、21年産の上級品は2番刈であっても、1番刈同様の相場で取引がされています。



（21年産ワシントン産アルファルファ 1番刈 6月下旬撮影）

カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは4番刈が進行中です。産地では連日最高気温が40℃を超えており、成分は低下しており中級品以下の発生が大半となっています。一方でサウジアラビアは引き続き旺盛に買付を行っており、相場を下支えしています。

ユタ州

ユタ州では1番刈の収穫は終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。1番刈は天候に恵まれ降雨被害もなく、良好な品質が期待されています。産地相場は、旱魃に直面している同州の酪農家からの需要が強いことや、中国をはじめとする輸出向けの需要も例年以上に強く、産地相場は上昇しています。

オレゴン州

オレゴン州南部クラマスフォールズでは6月上旬から開始された1番刈の収穫作業は終盤を迎えています。収穫期の大きな天候の乱れもなく、例年並みの作況となっています。一方産地では深刻な旱魃に悩まされており、河川からの農業用水向けの引水が制限されています。このため例年よりも生産量が減少することが予想されています。産地相場については、生産量の減少と旺盛な内需からの引き合いにより堅調に推移しています。

オレゴン州北部クリスマスバレーでは現在1番刈が収穫されています。収穫期間中に降雨に見舞われ、いくつかの圃場で雨当たりの被害が発生しています。

米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースンでは6月中旬から1番刈の収穫が開始されました。南部では収穫期に天候に恵まれたため、多くの上級品が発生しています。中部から北部にかけて6月中旬に降雨があり20%～30%程度で雨当たりが発生しています。もう一つの主産地である同州エレンズバーグでは1番刈の収穫作業が6月中下旬から開始されており現在終盤を迎えています。一部で降雨被害があったもの、比較的安定した天気が続いたため、良質なチモシーが収穫されています。

灌漑設備を使わず天水で生産が行われているアイダホ州でも1番刈の収穫が行われています。産地では旱魃に直面しており、21年産は単収が少なく例年の60%程度になることが予想されており、大きな減産が懸念されています。



(21年産上級品チモシー 7月上旬撮影)

スーダングラス

インペリアルバレー灌漑局から発表されました、7月1日時点の産地での作付面積は3

9, 913エーカー（前年同期；42, 032エーカー）と過去10年で2番目に低い作付面積となっています。産地では現在1番刈の収穫が折り返し地点を迎えています。これまで春先に播種された早播き品を中心に収穫されており、中級品以上の品質が多く発生しています。一方で産地相場は大きく上昇しており、いまだに落ち着きを見せていません。産地相場高騰の背景としては、①21年産の作付面積が少ないこと②各輸出業者20年産からの繰り越し在庫持っておらず、在庫率が低いこと③肥料価格が上昇したため、施肥量を減らした生産者もあり、例年に比べ単収が低いこと。などを理由に在庫を確保するため輸出業者間で旺盛に買付されています。夏場を迎え、気温も高く、湿度も発生していることから今後は茎サイズが太めな中級品以下が中心に生産されますが、カルフォルニア州の厳しい旱魃で内需向けの牧草不足していることから、相場は軟化することなく、堅調に推移することが見込まれています。



（収穫されたスーダングラス 7月上旬撮影）

クレーングラス（クレーンは全酪連の登録商標です）

主産地インペリアルバレーでは2番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては3番刈の収穫が開始されています。6月中旬頃から湿度も出てきており、気温も上昇したため、2番刈の一部で茎質が固く、色目が脱色したスタックも発生していますが、全体としては1番刈に引き続き品質は良好で、柔らかく葉量の多い仕上がりとなっています。産地では20年産の繰越在庫を持っている輸出業者もいるため、相場は安定的に推移しています。



（3番刈収穫前のクレーングラス圃場 インペリアルバレーにて 6月下旬撮影）

バミューダ

種子が高値で取引されているため、現在産地ではバミューダハイの生産よりも種子向けの生産が多くなっています。このためバミューダハイの発生は限られており、米国内の馬糧向けに高値で取引されています。例年、種子の生産数量が十分に確保できた後の夏場以降にバミューダハイの生産が増えるため、相場には引き続き注視が必要です。

カナダ産チモシー

アルバータ州南部レスブリッジは6月下旬から1番刈の収穫が開始されています。アルバータ州では6月下旬に熱波が襲い最高気温が35℃前後の日が続きました。作況にも影響が出ており、茶葉の発生や、穂の変色したチモシーが発生しています。同州中部クレモナでは7月中旬頃から1番刈の収穫が開始される見込みです。

豪州産オーツハイ

21年産の作付作業は終了しています。3月より中国向けの輸出数量が減少したため、産地の生産者はオーツハイ相場下落を懸念し21年産はオーツハイの作付けを避け、換金性の高い菜種や小麦、大麦への転作を増やしました。地域によりますが、21年産オーツハイの作付けは前年比30%～60%減少していると言われており、特に西豪州で他作物への転作が多くなっています。作況については6月に広範囲で降雨があったため、土壌水分が回復し全域で順調に生育が進んでいます。東豪州の一部の地域では気温低い日が続いており、例年に比べ生育状況は若干遅れています。



(左：東豪州の圃場、 右：西豪州の圃場 6月下旬撮影)

以 上